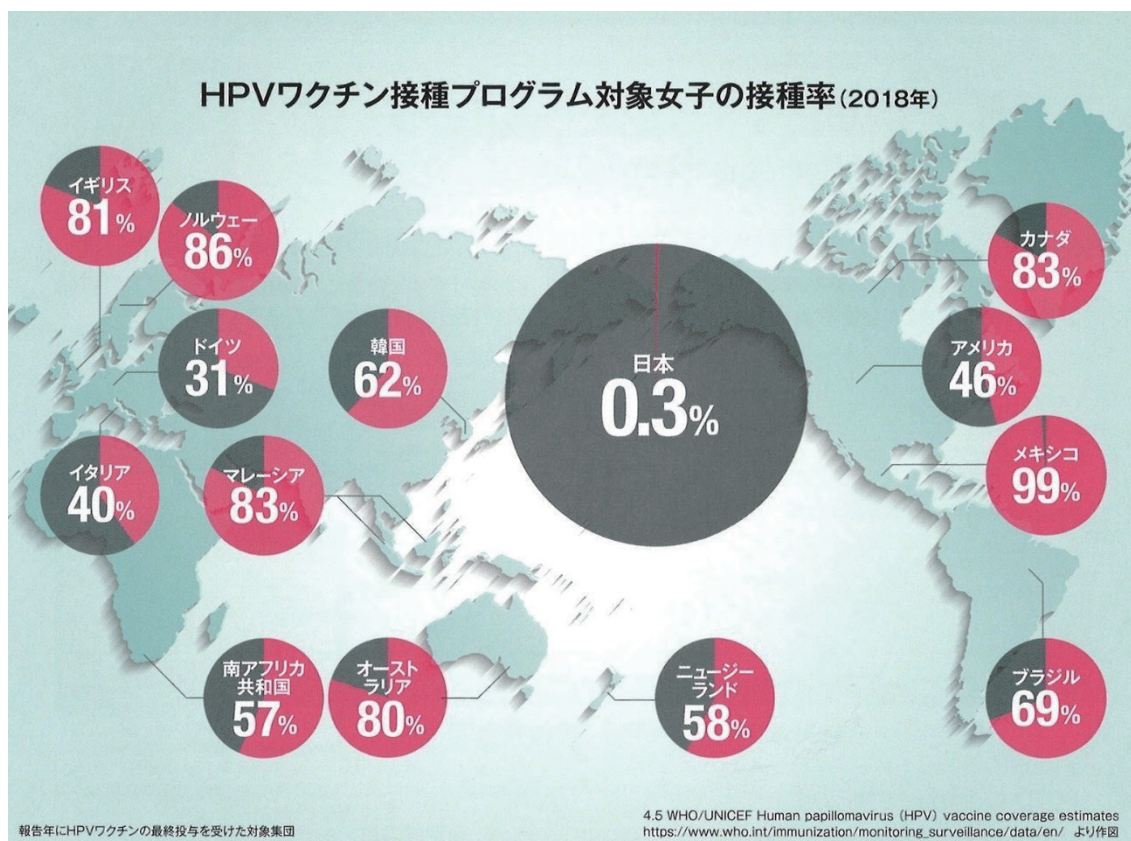


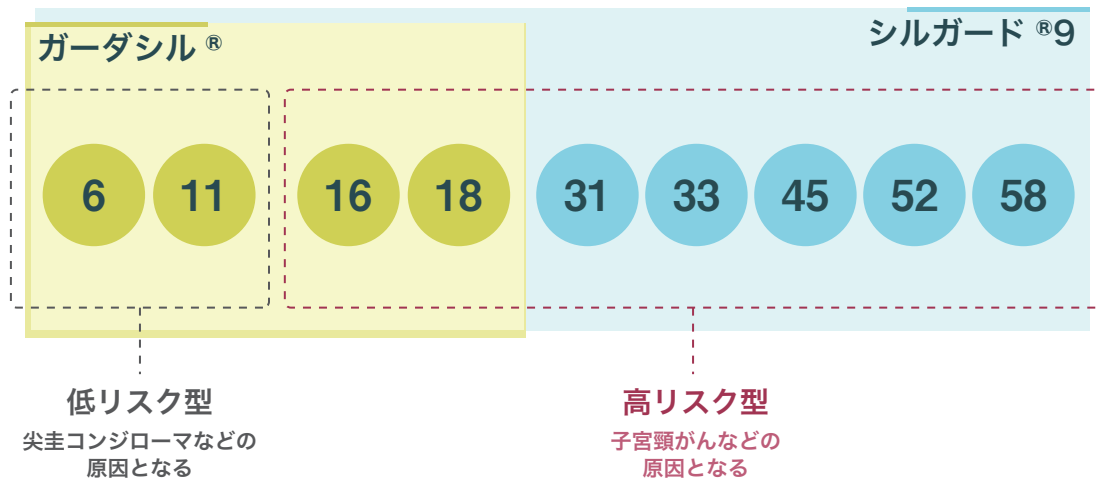
## HPV ワクチン（子宮頸がんワクチン）

子宮頸がんは、子宮の入り口にできる癌で、日本では、年間1万人の女性が発症し、約3000人が死亡しており、発症数・死亡者数共に近年増加しています。特に20-30代の女性の発症数が増加していることが特徴的です。子宮頸がんは、そのほとんどがヒトパピローマウイルス (HPV) の感染が原因であることが判明しています。



海外では、HPV ワクチン接種の普及に伴い、癌を発症することが激減しており、近い将来の子宮頸がん撲滅が現実的となってきました。しかし日本では、ワクチン接種の普及が10年遅れたために、接種率が異常に低く、現在も多くの若い女性や子育て世代の女性が子宮頸がんを発症し、妊娠することができなくなったり、命を失ったりしております。

HPVには、200種類以上の「型」があり、尖圭コンジローマなどの原因となる低リスクな型から、子宮頸がんの原因となるハイリスクな型まで様々です。現在4価（低リスク型2つ+ハイリスク型2つ）ワクチンのガーダシルと、9価（低リスク型2つ+ハイリスク型7つ）のシルガード9の2種類のワクチンがあります。



4価ワクチンのガーダシルは、子宮頸がんの原因となる HPV 型全体の 65.4% をカバーしていますが、9 価ワクチンのシルガード 9 は、約 90% をカバーします。両ワクチンともに、3 回の接種が必要であり、接種スケジュールは以下のようになっています。



ただしシルガード 9 は、次の条件を全て満たす場合には、2 回接種で完了できます。

1. ガーダシルとの交接種がないこと
2. 1 回目の接種が、12 歳を迎える年度の初日から 15 歳の誕生日の前日までの間である
3. 2 回目の接種が、1 回目から 5 ヶ月後以降である

これらいずれか 1 つでも満たさない場合には、3 回接種が必要となります。

#### \* ガーダシル

定期予防接種に指定されており、公費で接種可能です（費用負担はございません）。

公費接種の対象外の方につきましては、18000 円 / 1 回

#### \* シルガード 9

令和 5 年 4 月 1 日より定期予防接種に指定されました。

公費で接種可能です（費用負担はございません）。

公費接種の対象外の方につきましては、32000 円 / 1 回

定期予防接種の対象者：

小学6年生から高校1年生までの女子が接種の対象となっていますが、HPVワクチンの積極的な勧奨の差し控えにより公費での接種機会を逃した方に対しては、令和4年4月1日から令和7年3月31日までの3年間、従来の定期接種の対象年齢を超えて接種が可能です。（平成9年4月2日から平成18年4月1日までに生まれた静岡市に住民票のある女子）